Ｎｏ．２１４【２０１６年６月２４日配信】
市役所柳川庁舎付近にあった青森貯木場（担当：児玉）

皆さん。こんにちは。今日から青森市メールマガジン「あおもり歴史トリビア」の執筆を担当することになりました文化財課の児玉大成と申します。よろしくお願いいたします。

私が今、仕事をしている青森市役所柳川庁舎は、かつて「青森貯木場」があったところです。「青森貯木場」は、明治 38 年（1905）に陸奥湾に注ぐ沖館川河口に設置され、東は青森駅に接続し、西は津軽森林鉄道の起点として整備され、総面積は 10 ヘクタール、64,000 立方メートルの貯材が可能で、当時としては国内最大規模を誇る貯木場でした。今回は、青森貯木場周辺の移り変わりを紹介したいと思います。

青森貯木場

青森貯木場は沖館川を中心軸として、東側に水中貯木場（淡水池）とその東隣には陸上貯木場があり、現在は一帯が住宅地になっています。沖館川の西側には水中貯木場（塩水池）があり、ちょうど柳川庁舎が位置しています。さらに西隣には明治 39 年に操業された日本で初めての官営製材所「青森製材所」（現 パチンコ店付近）がありました。

この「青森製材所」は主にヒバ材を加工していましたが、大正 3 年（1914）の民営化に伴い、秋田木材会社が経営する製材所にかわっています。

やがて、ヒバ材だけではなく、広葉樹の利用が重要視されるようになり、昭和 8 年（1933）に 2 回目の官営製材所（青森運輸営林署製材工場）が整備され、昭和 40 年まで続きました。その場所は、水中貯木場（淡水池）の南側に位置します。

また、青森貯木場の北側にある沖館海岸は、津軽半島や下北半島の沿岸部からヒバ材の海上輸送で使われていました。今では海岸一帯が埋め立てられ、石油コンビナートなどが整備されています。

現在の航空写真に明治 44 年（1911）頃の各施設を重ねた図

地図は Google マップを使用
平成 28 年作成

青森貯木場の移りかわり

さらに水中貯木場（塩水池）の南側には、山林事務を取り扱う官庁「青森大林区署」（現 森林博物館）が置かれ、その庁舎新築工事が明治 40 年 12 月に始まり、翌年 11 月 23 日に落成式が挙行されました。ルネサンス式洋風建築の木造二階建てで、材料は青森県内の津軽地方や下北地方の豊富なヒバ材が使用されています。その後、業務の拡大により大正 10 年以降には次々に増築され、さらに昭和 9 年には玄関にある車寄せが増築されました。この庁舎は 70 年以上にわたり使用されてきましたが、昭和 54 年の鉄筋コンクリート造りの新庁舎（現 青森市役所柳川庁舎）の落成及び移転に伴い、青森市に譲渡されました。そして内部を改修して昭和 57 年から現在に至るまで青森市森林博物館として利用されています。